

# ふれんど通信

第17号

発行 平成25年 10月23日 児童養護施設ふれんど

「子どもたちの求める社会的養護とは・・・」 施設長 須藤 三千雄

『社会的養護の基本理念』として、①子どもの最善の利益のためには、児童福祉法の第1条「すべての児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない。」児童の権利に関する条約第3条「児童に関するすべての措置をとるに当たっては、児童の利益が主として考慮されるものとする。」と記述されている。②社会全体で子どもを育むことについては、社会的養護は、保護者の適切な養育を受けられない子どもを、公的責任で社会的に保護養育するとともに、養育に困難を抱える家庭へ支援を行うようにと明記されている。

『社会的養護の原理』として、①家庭的養護と個別化については、すべての子どもは、適切な養育環境で、安心して自分をゆだねられる養育者によって養育されるべきである。また、『あたりまえの生活』を、保障していくことが重要であると記述されている。②発達の保障と自立支援等については、未来の人生を作り出す基礎となるよう、子ども期の健全な心身の発達の保障を目指すことや愛着関係や基本的信頼関係の形成等が重要であると書かれている。③回復を目指した支援については、虐待や分離体験などによる悪影響からの癒しや回復を目指した専門的なケアや心理的なケアの必要性が示されている。他にも、家族との連携・協働、継続的な支援、ライフサイクルを見通した支援の大切さが記述されている。子どもの社会的自立を目指すには、どれも欠かすことのできないものばかりである。

以上の目的を達成するために、私たちは一人ひとりの子どもを大切に、子どもとその保護者への支援をしていきたいと考えている。平成18年9月の開設当初から、小規模グループケア（1棟7人～8人の子どもを3人の職員での支援体制）を目指してきた理由はここにある。

平成23年4月には、一般家庭に近い生活体験を持ちやすいことや子どもの生活に目が届きやすい対応、調理を通じて食とのかかわりが豊かに持てるような狙いをもって、地域小規模児童養護施設「あすなろ」（女子棟）を開設した。その「あすなろ」の1年半の運営経験から、集団生活によるストレスが少なく、子どもの生活が落ち着きやすいことや近所とのコミュニケーションが自然に学べる利点があると理解をした。反面、「あすなろ」の職員は、一人で多様な役割をこなすために、職員の力量が問われることが多い。人間関係が濃密となり、子どもと深くかかわる分、やりがいもあるが職員の心労も多く、厳しい職場環境である。また、子どもの集団を小規模化するほど、子ども自身は心に秘めた問題を表現するようになることを認識できた。

平成25年8月1日には、地域小規模児童養護施設「しらかば」（男子棟・定数6人）を開設した。子どもたちに引っ越しや転校等の迷惑をかけた分、それ以上に職員は頑張るつもりだ。

容易に心を開かない子どもの回復に特効薬はないと思いながらも、輝くような笑顔を作れる「ありふれた魔法」が、ふれんどの日常生活にないものかと悩み続けていたが、それは保護者や関係機関の皆さまの「面会」でしかないと確信しているこの頃である。

## 一年生です

副施設長 大武 昌博

今年4月にふれんどの副施設長に就任しました大武昌博でございます。これから末永くご指導願います。

私は児童養護施設に勤務するのは初めてなので、一年生です。知らないことも多々あると思いますが、これから勉強していきますので、一年生に免じてご容赦願います。

さて、初めてなので、まず簡単に自己紹介させていただきます。

私は福島に生まれ、新潟の大学に進み、東京で勤め、26歳で初めて埼玉に来ました。経歴も大学は経済学部で、就職したのがアパレルの営業という、福祉とは全く畑違いのことをしていました。ただ、大学時代にBBSというボランティアをしたことがきっかけで、「非行少年」に興味関心を持つようになりました。アパレルの会社に勤めていた時に、たまたま「国立武蔵野学院教護事業職員養成所」の入学試験の情報が入り、ダメもとで受けたところ、何の因果か合格してしまい、人生が180度変わってしまいました。

その後教護院（現児童自立支援施設）で27年間（国立武蔵野学院7年、埼玉学園20年）勤務しました。その大半を妻と一緒に子どもたちと生活を共にする、夫婦小舎制で働きました。多くの子どもたちとの生活は、今となったら楽しかった思い出でいっぱいです。楽しいと言っても、子どもの些細な成長や、退園した児童の何気ない感謝の言葉等ですが。ただ、27年の日々の生活は苦悩の連続だったと思返してしまいます。いくら子どものためと支援しても、裏切られることばかり。止まらない無断外出。反抗・暴力。自傷行為等など。しかし、その都度自分のできることは些細なことだが、子どもたちに伝え続けるしかないと考えていました。子どもたちは施設に入るまでに、私たちには想像もできないほどの苦しみ、悲しみを経験してきたのです。それを他人の私たちが救世主のように救えるはずが無いのです。しかし、子どもたちの心に寄り添い、できるだけ同じ目線に立ち、話を聞いてやることで、いつかあの寮長・寮母はこんなことを伝えたかったんだと思ってくれることを信じて仕事をしてきました。27年もやってきて何ができたか自信はありませんが、今までの経験をこのふれんどの何かのお役に立てればと思っています。

昨年1年間だけですが、児童相談所でも勤務させてもらいました。それこそ何をしたというわけではありませんが、その経験も児童養護施設に生かせると思います。

自分の紹介ばかりになってしまいましたが、ふれんどに来て、また子どもたちと触れ合えることが大きな喜びです。大変かわいい子どもたちばかりです。始めの自己紹介で私のあだ名を「タケブー」と伝えたので、皆「タケブー」とか「ブーちゃん」と言ってくれます。これは埼玉学園時代からのあだ名なので喜んでいきます。

ふれんどは今年地域小規模児童養護施設「しらかば」を8月にオープンし、2つ目の地域小規模施設となりました。今後も新しい視野を持ち、子どもたちと共に生活していきたいと思っています。どうかよろしく願います。

## 小規模グループケアと地域小規模児童養護施設について

ふれんどでは平成 25 年度 8 月に“あすなろ”とは別に地域小規模児童養護施設を新設した。名前は“しらかば”である。あすなろは女子棟で、しらかばは男子棟である。

そのため今号では地域小規模児童養護施設特集をお送りしたいと思う。

まず、児童養護施設の定義やグループケアとグループホームのそれぞれの定義を説明し、小舎制のメリットとデメリットをあげる。

児童養護施設とは、児童福祉法に定める児童福祉施設の一つ。児童福祉法第 41 条では、「児童養護施設は、保護者のない児童、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設」と定めている。

その寮舎の形態には大きく分けて大舎制、中舎制、小舎制である。

大舎制…大舎制が最も一般的な施設形態であり、1 舎につき 20 人以上の児童が住んでいる。

中舎制…中舎制は、1 舎につき 13 人から 19 人の児童が住んでいる。

小舎制…小舎制は、1 舎につき 12 人までの児童が住んでいる。

小規模ケアの形態は小規模グループケア、地域小規模児童養護施設、その他グループホームがある。ふれんどは、小規模グループケアと地域小規模児童養護施設を行っている。

### 小規模グループケア→ふれんど

2004 年から制度化されたもので、原則として定員 6 名である。小舎制に含まれる。できる限り家庭的な環境の中で、職員との個別的な関係を重視したきめ細かなケアを提供していくものである。

### 地域小規模児童養護施設→“あすなろ”、“しらかば”

2000 年から制度化されたもので、原則として定員 6 名である。本体の児童養護施設とは別の場所に、既存の住宅等を活用して行う。大舎制の施設では得ることの出来ない生活技術を身につけることができ、また家庭的な雰囲気における生活体験や地域社会との密接な関わりなど豊かな生活体験を営むことができる。

### ～大舎制と比べた小舎制のメリットとデメリット～

メリット…大舎制より家庭的な環境の中できめ細やかなケアを提供できる。

子どもの生活に目が届きやすく、個別の状況にあわせた対応をとりやすい。

生活の中で子どもたちに家事や身の回りの暮らし方を普通に教えやすい。

少人数のため行動しやすい。

デメリット…子どもと職員の関係が閉鎖的になりやすい。

人間関係が濃密となり、子どもと深くかかわる分職員の心労も多い。

小規模化の当初は子どもが感情を表出しやすく衝突も増える、しばらくして減少して落ち着く。

大きな課題を持つ子は少人数の職員では対応しにくい。

# 地域小規模児童養護施設

## あすなろ



\* 私はこれまで児童養護施設の大舎制、中舎制を経験してきて、今度は小舎制の施設で働きたいと思い、ふれんどに入職しました。小舎制の良さが見えてきたところ、あすなろの開設にあたり、自ら異動を希望しました。子どもたちの生活環境には施設というより、家庭的環境の中で育ってみたいと思っています。子どもとの関係性を大切に、職員が連携して「やさしい」支援を行っていきます。

荻原明美



あすなろの男性職員として女の子と関わり3年目。自分の立ち位置は？役割は？…と悩んだり、迷走した時期もありました。

もう私も「若い」とは言いにくい歳。中身のある人間になるよう日々精進し、大きな器で子どもたちの生活や自立へのサポート等ができたらと思います。

田中智也



あすなろでは、食事の献立作成、買い物、調理をすべて職員が行います。そういった環境だからこそ、私は子どもたちの「手伝いたい」「一緒に作りたい」という気持ちに、できるだけ応えるよう心がけています。地域小規模施設だからできる事をもっと見つけて実践していきたいと思っています。

郡司岬



Q: 子どもたちの構成は？職員の構成は？

A: 現在は小学生2名、中学生3名、高校生1名の6名の女の子が生活しています。

職員は、女性2名、男性1名の3名です。

Q: どんな生活の流れですか？

A: 家庭と一緒にです。朝食作りから始まり、子どもたちの登校を見送ります。掃除・洗濯をして、小学生が帰ってくる前に夕飯の買い物を済ませます。夕食の準備をしている頃に、中高生が帰ってきます。夕食を済ませると、テレビを観たりゲームをしたり思い思いに過ごし、入浴や宿題を済ませると小学生は21時に、中高生は22時に就寝します。職員1人は必ず泊まり、子どもたちを見守ります。

Q: 地域との関係は？

A: 子どもたちは学校の友達と遊んだり、地域の行事に参加しています。職員も積極的に地域に溶け込み、つながりを大切にしています。

# 地域小規模児童養護施設

## しらかば



氏名：横室満由美 生年月日 1952年8月28日

趣味：海外旅行（どこでも行きます!!）

7/16より地域小規模施設「しらかば」で勤務させて  
いただいております。人にやられて嫌は事ば人にやらばり、  
そんな心を持つる子供達を育てて行きたいと思っております。



8月1日開所した「しらかば」に  
異動をいたしました三澤です。

しらかばでは、ご近所様との  
付き合い、小さい集団での  
家庭的な雰囲気も大切に  
子ども達と生活しております。



しらかばでは小まんどご棟に入  
っていた頃よりも、児童一人一人と触れ合う  
機会が増えたと感じます。棟に入ってい  
た頃は、自分の棟以外の子ども達  
をいしましたが、今ではほとんどしらかば  
の子ども達と関わることはありません。  
しかし、それは職員と児童、屋根の下、家  
庭に似た環境です。今、子ども達はのびのびと  
生活しています。これからも健やかに成長出来るよう  
支援していきたいと思います。久保



8月1日に開所した地域小規模施設  
「しらかば」です。南羽生駅の近くにあります。  
現在5名の子ども達が生活しております。男の子  
の施設なので、毎日えびに、そして食事の食べる  
量も多く、食べる喜びは見事なものです。  
子ども達は新しい学校にも慣れ、友人と  
帰宅後、遊んでいます。職員は、毎日の  
食事作り、買い物に勤めています。(おしゃべり大愛な時)

# 親善球技大会 ～ソフトボール～

Cブロック参加が今年初めてで  
あいにくの悪天候の中子ども達は  
一人一人素晴らしいプレーをみせてく  
れました。日々の練習も汗たぬになりな  
がら声を出し必死に頑張っていました。  
この結果は必然だと思っています。

〇〇佐藤 (職員)

まさかの初優勝!!  
あまり練習の時間がとれなかった  
中でこれだけの成績を残せて本  
当に良かったです。子どもたち一人ひとり  
の頑張りにより「ありがとう」とばかり  
思います。

坂本 (職員)


## Cブロック 初優勝

優勝できてよかった。  
あとみんな雨の中がんばって  
勝つたので練習のせいかな  
みんな本気を出して、全力で  
点差も着けて勝つたのでよかった  
と思います。あとMVPとねえおめでとう  
です。T.K

みんなの練習の成果が実り、見事  
優勝することができました。暑中、  
みんな汗たぬになりながら練習を頑  
張っていました。  
その結果がみんなの笑顔で  
見ることができました。  
みんなお疲れ様!!

(職員)  
坂本

### 七夕




みんな七夕飾りを作りました。  
「フリガアになりたい」  
「ウザードになるぞ」  
「AKBになれますように」  
等々たくさんのお願い事を  
笹に飾りました。

## 昼間保育

### おとまり保育

8月～8月 学童が  
一泊旅行に行っている間、  
幼児さん10名は、  
昼間保育のお部屋でおとまり  
しました。日中は、ヨーヨーフリ  
ボリング、盆踊りとお祭りを  
楽しみ、幼児さんみんなでお  
はげに給し職員さんをおどろかせました。

### フッ素



はなさき公園  
羽生市ワークヒルズにて。  
7名の幼児がフッ素塗布して  
来ました。神妙な表情で頑張り  
ました。その後、はなさき  
公園へ！新しい遊具と  
真っ黒の顔に黒い汗?!  
たくさん遊んできました。


### プール

暑い暑い夏の間、プールに入  
りました。去年まで水をこわがて  
いた子が、今年は魚になって  
泳いでいました。笑顔いっぱい  
でした。



### おかあさんといっしょ

8/8 NHK様の御招待を  
頂き、さいたまスーパーアリーナで  
開催される「おかあさんといっしょ」  
に行ってきました。大きなホール  
にたくさん人で、皆、  
無口になってしまったり、  
開演おと立ち上がり  
音楽に合わせて踊る子  
など、楽しんで来ました。



## ある日の出来事

Y. Otsuki...

心理士から

## 欲求の理解

私たちは誰でも欲求(欲望)を持っている。と言うより私たちの生活そのものが、いろいろな欲求を満たすための営みでもある。ただ、その欲求の内容や強さはその人の発達段階や性格によって違ってくる。欲求は生まれながら持っている食欲や性的欲求の様な生理的欲求と社会的欲求がある。社会的欲求の主なものは、愛情、所属、社会的承認、独立、権力欲求などである。これらは社会的欲求と言っても、やはり本能的なものである。

愛情欲求とは親から愛されたい、人から愛されたい(特に思春期には異性から愛されたい)という気持である。特に乳児、幼児の頃は、この欲求が一番大切な時期でもあり、養育者との身体的接触によりこれを満たす。これにより情緒の安定も図られる。だから、この時期の子どもの養育に当たる者はこれが十分満たされるよう配慮しなければならない。

所属欲求とは人から仲間はずれにされたくないという欲求である。幼児期を過ぎる頃から芽生えてくる。そして、仲間はずれにされた子どもは、自分を受け入れてくれる別の集団でそれを満たすこともある。それが非行集団のこともある。

承認欲求とは、所属欲求の延長の様なもので、人(先生、仲間、上司など)から認められたいという欲求である。これが十分満たされないと孤立したり、対人不信感を抱いたりして、円滑な対人関係が取れなくなる。

独立欲求とは他人から干渉されたくないという欲求である。これは2歳ぐらいの頃に芽生える幼児の可愛い反抗心(靴がまだ一人で履けないのに履こうとして、大人の手助けを拒む等)もあるが、思春期において一番強く、反動的態度として現れることが多い。正義感や権力に対する反抗として現れることもある。

最後に権力欲求であるが、これは人の上に立って人をリードしたいという欲求であり、少年期から現れることもあるが、自我の確立した大人になってから強く現れる。この欲求の強さは人の性格によっても左右される。逆に他人に依存的になることで安定する人もいる。

これらの欲求はその人の言動として現れるが、その欲求があまりにも強かったり、他人の生活をおびやかすような形で現れたりする場合は、当然、その欲求をうまくコントロールしてあげる必要がある。また、必要な時期にその欲求が十分満たされなかった場合は、後戻りしてその欲求が現れる場合もある。(親に抱っこされたことの少ない子は、小学生ぐらいになっても抱っこを求めるなど)

これらの欲求が満たされないと欲求不満となり、不適応な言動を起こしてしまうこともある。

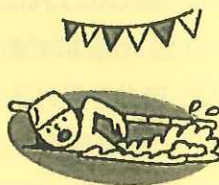
いずれにしても、私たち大人は子どもの欲求をよく理解し、よりよい対応に心掛けなければならない。(守屋昭一)

## 日誌

※毎月、職員会議・自立支援検討会議を実施  
※随時、職員研修を実施

### 8月

1日：地域小規模施設『しらかば』開設  
2日：F棟外出  
7日～8日：学齡児一泊旅行  
17日：幼児『おかあさんといっしょ』鑑賞  
21日：あすなろ外出  
22日：A棟外出  
23日：児童福祉施設親善球技大会  
E棟外出  
24日：くわの実納涼祭  
25日：しらかば外出  
26日：B棟外出  
27日：C棟、G棟外出



### 9月

2日：小、中、高等学校始業式  
4日：東中・西中 実力テスト  
6、7日：誠和 羽一高 文化祭  
18日：東中 文化祭、合唱コンクール  
20日：西中 中間試験  
21日：ふじ高 体育祭  
24日：南中 到達度テスト  
26日：西中 合唱コンクール  
27、28日：進修館 文化祭  
28日：新二小 手小林小 運動会  
29日：川俣小 運動会

### 10月

8日：東中 実力テスト  
9日：羽実 体育祭  
10日：誠和 体育祭  
15～17日：羽一高 中間考査  
22日：手子林小 遠足  
25、26日：羽実高 羽実祭



26日：新二小 すずかけまつり  
羽実高 文化祭  
27日：南中 文化祭、合唱コンクール  
30～31日：手子林小 修学旅行  
31～11/1：新二小 修学旅行

### 11月

2日：ふれんど秋の遠足  
3日：羽一高 総合学力テスト  
12日：南中・西中 実力テスト  
16日：ふじ高 学園祭  
21～22日：南中・西中 到達度テスト  
26日：新二小 持久走大会  
27～29日：誠和 期末テスト  
羽実 修学旅行  
29日：川俣小 持久走大会



いつも温かいご支援ありがとうございます  
～寄贈品～

斉藤悦也、野本典子、臼倉文明、漆原弘一、  
河田美登里、岩浅尚子、大月都、岡戸経子、  
村田純一、田尾和子、秋元浩・千恵子、鎌  
田悦子、石井年夫、荏澤潤子、井田治久、  
岡戸富美子、三晃社スポーツ、島田肉店、  
株式会社E-vol(代表取締役 川口ひびき)、  
羽生地区更生保護女性会、和田百貨店、セ  
カンドハーベストジャパン、鴨川会、北関  
東フードバンク、清水運送(有)、栗原商店、  
比賀電気、久保接骨院、日本レコード協会、  
木村周作商店、グリーンショップしみず、  
けやきホーム、あゆみ学園

(敬称略・順不同)

#### <編集後記>

今回は、地域小規模について主に載せさ  
せていただきました。温かい目で見守って  
頂けたら幸いです。

担当：木村・黒田